



公益社団法人日本金属学会は1937年2月14日に創設され、2021年2月末時点の会員数は国内外合わせて4,757名、156団体で、金属およびその関連材料に関する研究成果を世界に発信する学会として活動を展開している。組織図に示すように、「社員総会」、「理事会」、「監事」の下で、「委員会」、「支部」、「事務局」により、学術誌や学術図書の刊行、講演会や講習会の開催、調査・研究、表彰・奨励の事業を行っている。広報活動を強化し、金属学会のプレゼンスの向上等を図ることを目的として、2021年に「広報委員会」を設置した。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、2021年は講演大会のオンライン開催への変更、理事会を始めとした会議や研究集会等のオンラインでの開催や中止を余儀なくされ、一部の活動が滞った。

刊行事業では、会員の情報交換や啓発・教育を目的として、会報「まてりあ」を刊行し、会員に配布している。2021年は第60巻となり、表紙のデザインを一新し、「60巻記念企画」を掲載した。さらに、魅力ある会報に向け「あのころの“まてりあ”」、「よくわかる！ピンポイント講座」、「実学講座」等の企画の掲載を開始した。和文の学術論文誌「日本金属学会誌」および、材料系14学協会で共同刊行している英文の学術論文誌「Materials Transactions」を刊行して、研究成果を国内外に広く発信している。日本金属学会誌では年間約60編の論文を、Materials Transactionsでは年間約340編の論文を掲載している。Materials Transactionsはインパクトファクターが1.389に上昇した。関連分野に関する専門書や教科書等の「学術図書類」を刊行しており、2021年から既刊図書の電子書籍化と販売を開始した。

講演会・講習会事業では、最新の研究成果を発表・討議するとともに、会員間の交流を図ることを目的として、春秋2回の「講演大会」を開催している。2021年は春秋ともオンラインで開催した。春期講演大会は約630件の講演、約1200名の参加で、秋期講演大会は約880件の講演、約1500名の参加で開催した。講演大会では、材料に関する関心を高めても

らうための「高校生・高専生ポスター発表」、「機器展示」、「技術セミナー」もオンラインで実施した。さらに、秋期講演大会では、「学生キャリアサポートセミナー」を開催した。また、「セミナー」、「シンポジウム」等は開催を翌年に延期した。「国際会議」も2021年の開催はなかった。

調査・研究事業では、関連が深い専門分野の研究者や技術者が集う9つの「分科」で「調査研究委員会」の活動を行っている。先端領域や学際的領域の研究を促進する目的で「研究会」や「若手研究グループ」が活動しているが、2021年は活動が困難であったため、活動期間を1年延長した。また、学術・技術の発展や若手研究者の奨励を目的とした助成事業として「フロンティア研究助成」を行っている。他に、材料戦略活動、人材育成活動、男女共同参画活動を行っている。また、国際学術交流活動として、World Materials Day Awardの授賞、米国TMSとの講演大会へ研究者の相互派遣、韓国KIMとの共同シンポジウム開催等を実施しているが、2021年は全て中止した。一方で、2021年はASM Internationalと連携に関する覚書を締結し、ASMコンテンツの会員価格での提供等を開始した。

表彰・奨励事業では、「名誉員」や「学会賞」を始めとして、優れた研究や技術開発の成果を上げた者や当該分野の発展に寄与した者の表彰や今後の貢献が期待される者の奨励を目的とした「各種賞」は、2021年も例年通り17件の表彰・奨励を行った。また、金属学会フェローを認定した。

例年は、全国の8支部も活発に活動しており、各支部で独自に講演会、講習会、研究会、見学会などを実施しているが、2021年は縮小せざるを得なかった。

日本金属学会は21世紀を担う研究者や技術者の入会を歓迎します。「まてりあ」は、会員のみ提供されます。会員には、講演大会への会員参加費での参加および登壇費の免除、刊行物の会員価格での購入、セミナー・シンポジウム・講演発表会等への会員割引価格の参加等の特典があります。

